

【小学校 算数】

全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

1 平均正答率等について

本市の小学校算数の平均正答率は60%で、全国の平均正答率と比べ▼2.5%、県の平均正答率と比べ▼2%下回っています。「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の4領域において全国の平均正答率を下回りまわりましたが、「数と計算」領域の「知識・技能」に関しては、3問中2問において全国の平均正答率を上回りました。

③ (3)

2 特徴が見られた問題

③ (3) では、本市の平均正答率 (75.4%) が全国の平均正答率 (72.4%) と比べ△3%上回り、加法と乗法の混同した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりして答えを求めることができる児童が多いと考えられます。しかし、④ (1) では、本市の平均正答率 (37.8%) が全国の平均正答率 (46%) と比べて、▼8.2%下回り、百分率で表された割合を苦手とする児童が多いと考えられます。解答類型を分析すると、30%について、100人を基準量としたとき、それに対する比較量を捉えることができていない児童が多く見られました。これからの学習では、基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉えることができるようにすることが大切です。

② (4) では、本市の平均正答率 (16.0%) が全国の平均正答率 (20.8%) と、全国の平均正答率と比べて▼4.8%下回っています。ここでは、公式は覚えていますが、高さについての具体的な長さが示されていないため面積を求めることができないと判断している児童が多く見られました。これからの学習では、平行な二つの直線にはさまれた底辺の長さが等しい平行四辺形の面積を比較する方法を考えさせるなどし、底辺の長さが等しいとき、具体的な高さが分からなくても面積を比較することができることを実感を伴って判断できるようにすることが大切です。

3 これからの学習に当たって

「変化と関係」の領域の「知識・技能」の観点で全国の平均正答率より▼8.2%下回っており、基準量と、比較量の関係を正しく捉え、割合について正しく理解ができるような指導が必要です。

「図形」の領域では、全国の平均正答率を▼4.9%下回り、苦手な児童が多いと考えられます。図形の学習では、実際に図形を操作したり、ICT機器を活用して図形を捉えたりする学習等を通して、身の回りにあるものの形に目を向け、図形について豊かな感覚を身に付けていくことが大切です。また、図形の性質を活用し、具体的な場面での確に表現したり、処理したりできるような指導が必要であると考えます。

(3) けんたさんは、下の①と②の計算について考えています。それぞれの計算の答えを書きましょう。

- ① $(151+49) \times 3$
- ② $151 \times 3 + 49 \times 3$

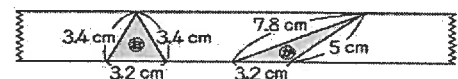
④ (1)

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

② (4)

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような①と②の2つの三角形をつくります。



上の①と②の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ①の面積のほうが大きい。
- 2 ②の面積のほうが大きい。
- 3 ①と②の面積は等しい。
- 4 ①と②の面積は、このままでは比べることができない。